

平成28年度 第2回合同研究成果発表会（食品・健康分野）のご案内

大学・高専・大分県産業科学技術センターの主催にて、毎年「合同研究成果発表会」を開催しています。県内企業のみならず、研究成果を分かりやすくご紹介し、活用の促進を図ることを目的としております。本年度、第2回の発表会では「食品・健康分野」をテーマとして、以下のとおり開催いたします。お気軽にご参加ください。

- 1 日 時： 平成28年10月20日(木) 13:30～16:20
- 2 会 場： 大分県産業科学技術センター 多目的ホール（大分市高江西 1-4361-10）
- 3 主 催： 大分県産業科学技術センター
大分高等教育協議会／地域連携研究コンソーシアム大分
大学等による「おおいた創生」推進協議会
- 4 内 容：
 - 13:30～13:35 開会
 - 13:35～14:00 ① 福祉健康科学部理学療法コースの概要と健康に関する研究事例の紹介
大分大学福祉健康科学部 福祉健康学科 理学療法コース 講師 阿南雅也 氏
 - 14:00～14:25 ② H-ORAC 法による抗酸化能評価
大分県産業科学技術センター食品産業担当 主幹研究員 徳田正樹 氏
 - 14:25～14:35 休憩
 - 14:35～15:00 ③ 心臓周囲脂肪と心疾患
大分大学医学部 循環器内科・臨床検査診断学講座 医員 安部一太郎 氏
 - 15:00～15:25 ④ 肥満に伴う認知症予防における食品の有用性
大分大学医学部 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座 助教 後藤孔郎 氏
 - 15:25～15:45 知財総合支援窓口（大分県発明協会）の支援メニューについて
（一社）大分県発明協会 窓口支援担当 藤本秀次 氏
 - 15:50～16:20 産業科学技術センター施設見学・閉会
- 5 お申し込み： FAXもしくはメールにてお申込みください。〆切 10月18日(火)

「食品・健康」分野 合同研究成果発表会 参加申込書（10月18日〆切）

FAX：097-596-7110 企画連携担当 谷口（メール:info@oita-ri.jp）

事業所名：	TEL：	FAX：
住所：	連絡担当者：	
参加者氏名	部署名	役職

（ご記入いただいた情報は、本発表会の運営管理のみに利用します。送信いただいたFAXやメールにつきまして、受信確認のご連絡はいたしません）

●お問い合わせ先：大分県産業科学技術センター 企画連携担当 TEL 097-596-7101

●発表概要

発表者	発表テーマ	発表概要
<p>大分大学 福祉健康科学部 福祉健康学科 理学療法コース 講師 阿南雅也 氏</p>	<p>福祉健康科学部理学療法コースの概要と健康に関する研究事例の紹介</p>	<p>本学部は平成 28 年度に新たに設置され、医療と福祉、心理を融合した「福祉健康科学」という新たな学問領域を創設した。その中でも理学療法コースは、本学部のコンセプトである 3 つの側面から問題解決を図ることが望ましいとする「バイオ・サイコ・ソーシャルモデル」の「バイオ（からだ）」を担うものである。理学療法の対象者は主に運動機能が低下した人々だけでなく、運動機能低下が予想される高齢者の予防対策、メタボリックシンドロームの予防など、健康な人々に広がってきている。そこで今回、福祉健康科学部理学療法コースの概要、そして理学療法士が行っている「健康」に関する研究事例を紹介していく。また今後、大分大学に導入予定である研究機器（3次元動作解析システム、筋電計など）を紹介する。</p>
<p>大分県産業科学技術センター 食品産業担当 主幹研究員 徳田正樹 氏</p>	<p>H-ORAC 法による抗酸化能評価</p>	<p>過剰な活性酸素を消去することで生活習慣病を防止し、健康を維持する機能があるということで、消費者の認知度も高い「抗酸化物質」であるが、その抗酸化能を評価する方法には様々なものがある。 H-ORAC 法は、抗酸化能評価の標準手法として研究が進められているが、今回、当センターにおいても、試料抽出から分析までの一連の操作が、精度、再現性ともに良好に実施できる体制を整備することができた。 機能性表示食品制度が始まり、機能性に着目した商品開発の機運が高まっていることから、今後、品質評価への活用が期待される。</p>
<p>大分大学 医学部 循環器内科・臨床検査診断学講座 医員 安部一太郎 氏</p>	<p>心臓周囲脂肪と心疾患</p>	<p>我々はこれまで肥満に心房細動が多く合併する機序について実験的検討を行ってきた。本研究では、心外膜脂肪の関与について検討を行った。ヒト左心耳組織を用いた生化学検査、組織学検査を行い、また高脂肪食負荷マウスの左心耳組織を観察した。結果、心外膜脂肪は左房に深く浸潤し心外膜脂肪に接する心房筋に著明な間質線維化を認めた。同部位に膨化した脂肪細胞、マクロファージ集積を認めた。マウスでも心外膜脂肪の堆積と線維化が確認された。心外膜脂肪は心房筋に浸潤し、炎症性心房線維化を促進させていることが強く示唆された。</p>
<p>大分大学 医学部 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座 助教 後藤孔郎 氏</p>	<p>肥満に伴う認知症予防における食品の有用性</p>	<p>近年、肥満がアルツハイマー型認知症（AD）の危険因子であり、さらに、腸内細菌叢と肥満との間に関連性があることを示す研究が相次いで発表され、腸内細菌叢が肥満や AD の予防・治療の標的となりうることを示唆されている。一方、神経細胞の維持に重要な働きをする脳由来神経栄養因子（BDNF）の脳内発現が、AD 患者では低下していることが確認されている。今回、高脂肪餌誘導性肥満モデル動物を用いて、ヨーグルト、コーヒー、大豆といった腸内細菌叢の改善に有効と考えられている食品の摂取が、脳内 BDNF 発現を促進させるかについて検討した。</p>